

単元名

ふゆと なかよし

教科書 上巻 p.94～108 単元の配当時間 10時間／活動時期 1～2月

単元の目標

冬の自然と関わる活動を通して、冬の特徴や冬とそのほかの季節との違いを見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、冬の自然のようすや季節の変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
ふゆに やって みたい ことを はなそう（1時間） 幼児期や日常生活での体験をもとに、自分が知っている冬の自然のようすや冬遊びを振り返り、冬の自然の特徴を予想したり、してみたいことを考えたりして、冬探しや冬遊びへの意欲を高めることができるようにする。	態	冬を楽しみたいという思いをもって、冬探しや冬遊びの見通しを立てようとしている。	教科書上巻p.94～97の写真やイラストと自分の体験を結びつけながら、冬の楽しみ方について積極的に振り返り、してみたいことを伝えたり、学校でできることを考えて進んで提案したりしている。	●冬の自然物や年中行事、冬の遊びについての写真や動画、図鑑、絵本などを見るように促す。 ●友達から幼児期に楽しんだ冬の遊びを聞きながら、どんな遊びをしてみたいか考えるように助言する。
ふゆの 校ていに 出て みよう（2時間） 冬の校庭を探検し、諸感覚を生かして冬の特徴を見付けたり、春から秋の校庭のようすと比べたりすることを通して、冬の自然の不思議さを感じたり、冬の特徴やほかの季節との違いや変化に気付いたりすることができるようにする。	知	冬の校庭の自然のようすや特徴、秋から冬への季節の移り変わりに気付いている。	「日陰にたくさん霜柱があるよ」「桜の木が枝だけになっているね」「バッターがいなくなったね」など、冬ならではの自然のようすや特徴、秋からの変化について具体的に気付いている。	●自分の記録カードを見直し、ほかの季節に見られたものがどう変わっているか気付けるように支援する。 ●変化を感じやすいように定点の写真（木や花壇など）を用意し、並べて比べさせる。
	思	諸感覚を生かしたり、春から秋までの校庭のようすと比べたりしながら、冬の特徴を見付けたり、ほかの季節との違いを探したりしている。	「今日は寒くて手が赤いね。池に氷が張っているかもしれないよ」「冬の北風はとても強いね。ビュービュー音がするよ」など、諸感覚を生かして冬の特徴を感じたり、ほかの季節のようすと比べたりして、冬のよさや季節の変化について表現している。	●春から冬にかけて校庭がどのように変化するかについて、教科書のイラスト（上巻p.10～11、42～43、68～69、98～99）や実際の写真などを比べて、変化していることを探すように促す。

単元の評価規準

●知識・技能

冬の自然と関わる活動を通して、冬の自然のようすや季節の変化、それを利用した遊びの面白さに気付いている。

●思考・判断・表現

冬の自然と関わる活動を通して、冬の特徴や冬とそのほかの季節との違いを見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。

●主体的に学習に取り組む態度

冬の自然と関わる活動を通して、季節の変化を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
かぜで あそぼう（5時間） 風を利用して遊ぶおもちゃを工夫して作り、友達と楽しく遊ぶことを通して、風によって起こる現象の不思議さや風を利用して遊ぶ楽しさに気付くことができるようにする。	知	自然の現象の中にきまりがあることや、その不思議さに気付いている。	「風を受けてたこがあがっているね」「風が強い場所があるよ」など、冬になると風が強くなることや風を利用して遊べることに気付いている。	●冬の自然に着目しにくい場合は、いっしょに遊びながら「風って面白いね」などと声をかけ、冬の自然を利用していることを意識させる。
		遊びを工夫したり遊びを創り出したりすることの面白さに気付いている。	「風が強いと風車がよく回るよ」「風に向かって走るとたこがよくあがるよ」「風が強いところを探そうよ」など、風を上手に利用することで楽しく遊べることに気付いている。	●「〇〇さんの風車はよく回ったんだね」「どんな工夫をしたのかな」など、友達の遊んでいるようすをいっしょに聞き、楽しむための工夫を考えさせる。
	思	風を生かしたおもちゃで繰り返し遊び、根拠を探りながらおもちゃを改良したり、遊び方を工夫したりしている。	「たこをもっと高くあげるにはどうしたらいいかな」「風に背中を押してもらってみんなでかけっこしようよ」「かざわの転がし競争をしようよ」など、もっと楽しく遊ぶための工夫を調べたり、考えたりしている。	●「たこのどこを工夫したらもっとよくあがるかな」「どうしたらもっと楽しく遊べるかな」などと問いかけ、工夫できることを考えさせる。
	態	風を生かして繰り返し遊び、自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなで楽しめる遊びを創り出そうとしたりしている。	いろいろな場所で風を利用した遊びを試したり、どのように風を利用すると楽しいかを考え、進んで友達に伝えていっしょに楽しもうとしたりしている。	●友達との関わりが苦手な子どもには、世話好きな子どもといっしょに活動させたり、グループで活動したりするように促す。
ふゆの あそびをしょうかいしよう（2時間） お気に入りの冬遊びを紹介し合ったり、これまでの四季を通した活動を振り返ったりすることを通して、季節の変化を実感したり、経験や気付きを生かしてこれからも楽しく生活したりしようとしている。	知	季節に合わせて、自然のようすや生活のようすが変化していくことに気付いている。	春から冬までの活動から、季節の変化に合わせて自分たちの生活や遊びが変わっていることに気付いている。	●季節の変化に気付きにくい場合は、春から冬にかけて、生活や遊びを比べるように助言する。
	思	それぞれの季節を比較して、違いや変化を見付けながら、自然の移り変わりや自分たちの生活との関わりについて、自分なりの方法で伝えたり、振り返ったりしている。	楽しかった冬の遊びについて、季節の移り変わりに関連づけながら発言したり、相手にわかりやすい伝え方の工夫を考えて発表のしかたを選んだりしている。	●発表方法が決められない場合は、何を伝えたいのかを明確にさせ、内容に応じて発表方法を選択するように助言する。
	態	みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、これからも季節に合わせて遊びを工夫したり、生活を豊かにしたりして自分の生活を楽しくしていこうとしている。	季節の遊びを通して友達と交流したことや気付いたことを生かして、これからの生活に期待したり、楽しくしようとしていたりしている。	●「また春がやってくるね」など、四季が再び繰り返すことに着目させ、これからの生活に思いをもつことができるように支援する。